

「達成目標年の設定に係る専門的課題協議会（第1回）」議事概要

1 開催日時

令和7年10月28日（火）午後3時～午後5時

2 開催場所

TKP ガーデンシティ御茶ノ水カンファレンスルーム2D（Web 併用）

3 出席委員

近藤 康二	公益社団法人中央畜産会 専務理事
佐藤 勸	全国農業協同組合連合会 畜産総合対策部 部長
新村 毅	東京農工大学大学院農学研究院 教授
寺田 文典	元 東北大学大学院農学研究科 教授
八木 淳公	公益社団法人畜産技術協会 常務理事

4 会議の運営

（1）資料の説明

- ・ 資料2に基づき、農林水産省から協議会の趣旨等について説明を行った。
- ・ 資料3に基づき、アニマルウェルフェアに関する飼養管理指針における事項ごとの達成目標の検討について説明を行った。

5 議事概要

【達成目標年の設定に係る専門的課題協議会 開催要領】

- 協議会において、議事概要を作成し、各委員の了承を得たうえで資料と併せて公開することだが、農林水産省または畜産技術協会のどちらのHPで公開をするのか。

〔事務局〕

- ・ 畜産技術協会のHPに掲載する。農林水産省のHPでもアニマルウェルフェアについての取組を周知するため、資料を掲載する畜産技術協会のページのリンクを案内する予定。
- ・ 畜種ごとの検討をする会議の議事概要については、全ての畜種の検討が終了次第公表する。

【アニマルウェルフェアに関する飼養管理指針における事項ごとの達成目標の検討について】

（１）質疑事項等

- 飼養管理指針の達成目標を事項ごとに設定するということがあったが、ここで指す「事項」はアンケート調査の各項目に準じた内容という理解でよいのか。また、事項に関しては今後変わらない予定か。WOAH コードでは、正常行動についての研究があるが、今回の調査では正常行動についての設問が無かった。次回の達成目標年に追加を検討するなどの予定はあるのか。
- 達成水準について事項ごとの評価を行うとのことだが、総合的評価については検討しておられるのか。全体の進捗は、個別の事項だけでは評価できないように思う。
- アンケートの同じ項目でも、生産者によって「あてはまる」、「あてはまらない」の考え方に差が出ると思われるが、考え方の違いを水平化できるようなチェックの基準の作成については考えておられるのか。また、アンケートをどの程度回収すれば、調査結果が日本のアニマルウェルフェアの取組水準と見なせると考えているのか教えていただきたい。
- どういう取組をしていけば「あてはまる」に該当するのかという、回答する際の基準を示すことは難しいと思う。回答基準を示すということは、その事項に関する基準をはっきりと示すことになるが、国際基準やEUの基準などの様々な基準がある中で、全ての項目をこれであれば基準を満たすという水準をはっきりさせるのは難しい。「ややあてはまる」という回答も選べるので生産者の主体性を活かして今まで同様にチェックしていただければよいのではないか。
- 目標の達成状況の調査の際には事項ごとに聞き方を工夫するべき。例えば、断尾について、以前はしていたが最近はしていない場合もあるため、「1年以内で生まれた牛には断尾をしていないか。」など聞き方でチェックの統一ができるような工夫をしたほうがよい。

〔事務局〕

- ・ 今回の調査結果をベースに目標年を設定するため、目標を定める事項も調査する事項も基本的には変更しない予定。そのため、目標年までは、同様の事項について調査・検証をしたい。細かい具体的な項目設定については、今後WOAHのコードも変更されることを加味し、周辺状況の整理も行いながら検討していきたい。

- ・ 総合的な評価については、項目の達成数で数的な評価をしながら、その状況の評価するということになると思う。着実に取組が進んではいるが、項目によっては引き続き普及していく必要があるなど、おそらくそういった評価になると思う。
- ・ ご意見を参考にしながら、広く回答が集められるような設問を作成して、各事項についての取組状況の実態を把握することを第一歩に進めていきたいと考えている。設問の作りについては、個人の考えに差が出ないように工夫したつもりだが、分かりづらい部分があれば、適宜改善をして丁寧に聞くというやり方で意識の統一をしていきたいと思う。飼養面積の数値基準などは過去の文献を見ても明確に示しきれない部分もあるため、最後までその懸念はぬぐい切れないとは思いますが、なるべく工夫をして調査をしていきたいと思う。
- ・ アンケート回収数については統計上の必要数を担保できる水準に達している。

(2)「達成」水準の数値設定

- 達成目標の考え方について、「あてはまる」「ややあてはまる」の合計で考えることには賛成。95%という達成水準については、国交省の污水处理施設の普及目標を参考にしているようだが、これは国や自治体が必ずやらなくてはならないこととして取り組む目標水準のため、本件の参考にするのは難しい。イノベーター理論に基づく達成水準 84%についても、保守的な層である 16%を切り捨てているようにも捉えられるので、達成目標として定める水準に関する根拠については、再度検討を行うべきだと思う。
- 95%という水準は生産者にとって非常にレベルの高いものだと思うので、もう少し検討するべきだと思う。理想としては、95%だと思うが、アンケート結果を見ると、畜種ごとに取組が進んでいない事項については自助努力で取り組めるものだけではなく、投資が必要なものや獣医師しか対応できないなどの項目もあるため、全ての水準を同程度あげることは難しいのではないかな。
- 令和 6 年度本格調査で設定した事項だけであれば、95%のような高い水準を設定して目指していくようにしても問題はないと思う。だが、1%でも水準に達していないとアニマルウェルフェアができていないというのも違和感があるので、達成水準を数値で定めなくても取組が向上していけばよいのではないかな。
- 目標値は、最終的に目指すところを考えると 95%でもよいと思うが、5 年ごとという短期的な目線で見ると非常に難しいところがあると思う。数年で見るのであれば、最初の目標として、84%程度でも妥当だと思う。

- 「あてはまる」と「ややあてはまる」を一緒にするという意見に賛成。「ややあてはまる」という回答は、回答者として結果に完全に満足しているわけではないがアニマルウェルフェアに意識して取り組んでいる者を含み、各人の理解醸成の確認にもなる。目標値について 95%ではなく 84%でもいいのではないかという意見もあるが、84%に定めた根拠を説明した際に消費者の皆さまにご理解いただくことができるか疑問。ただ、本当に 95%が適切かという点については、まだ議論が必要だと思う。
- 「あてはまる」のみに注目した達成水準については特に必要ないのではないか。取組状況調査で本来「あてはまる」と回答できる取組状況であっても、勘違い等によって「あてはまる」と回答しない生産者もいるので、これまで通り、受け皿となる「ややあてはまる」を設けた上で「あてはまる」と合算した数値を追っていくことがよいのではないか。
- 最終的な達成水準を定めた上で、当面の数値目標をそれより低い〇%とするといった目標の立て方を検討してみるのもよいのではないか。
- 過去の類似のアンケートと比べてどの事項で取組状況が改善しているか、もし経時的なデータがあれば共有いただきたい。例えば、感覚として、鶏の換羽への取組みはここ数年で進んでいる。また、実際に令和 6 年度の本格調査の結果を見たところ、鶏では約 90%はあてはまるかやや当てはまるになっていたと思う。取組状況の経時的なデータがあれば、この事項であれば 95%を達成水準にしても達成の見込みが立てられるだろう、といったことが明確になってくると思う。達成見込みの推測が立つのであれば 95%でもありだと思う。明らかに難しいということであれば、達成水準を落とさないといけないと思う。
- 「あてはまる」と「ややあてはまる」の回答数に差がある事項も一部あり、「あてはまる」のみの達成水準では取組状況の推移を十分に評価できないだろう。回答数に差が生じている事項については、対策をしていかななくてはならないと思う。
- 「あてはまる」、「あてはまらない」については、分ける必要はないと思う。ただ、どのように着実に進んでいるかという指標として、分析の際には「ややあてはまる」が次のアンケートでどの程度「あてはまる」に移行できたのかをしっかりと確認できればと思っている。
- 確認だが、ここで議論している 95%や 84%といった達成水準について、今度はこれらの数値を畜種別の委員会で検討していただくという手順になるのだろうか。

- 今回の達成目標はいつまでに確定させるのか。来年度か。
- 達成水準について、最終的な水準の数値は 95%くらい高い目標であるべきと考えているが、取組状況調査を行う際の設問について今後も回答しやすい文章の書き方を考えていく必要があることや全戸調査ではないことから、5%刻みではなく、先ずは 10%刻みで大まかにとらえていくことも一つの案かと思う。
- 最初の目標年度であれば、達成水準の考え方として全部の事項で○%向上させる、という方法も考えられる。

〔事務局〕

- ・ 過去のデータの変化の動きについては、類似の調査というのは令和 5 年と令和 6 年でしか行っておらず、その間で大きな変化は起きていないため、お示ししづらいと思う。そういった数字を置いたときに実際に達成しうるかについて、参考資料の方で達成の状況が分かるものを準備させてもらっている。達成の難しさや 5 年でどこまで達成可能かについては、畜種ごとの検討会でお招きする専門家の方々と共に議論をして決めていければとは思う。
- ・ 基本的には、この検討会で統一的な数値目標の案を設定していただき、それを畜種別にそれぞれが抱える状況に応じて、項目によっては上下させるということを考えている。

(2) 目標を設定する期間

- 隔年で進捗確認の調査をすることを考えれば、目標年度を 5 年とするのは妥当ではないかと考える。
- 事項ごとに達成目標年度を定めることを検討してもよいのではないか。
- アニマルウェルフェアは、常に情勢が変わっていくものなので、5 年ごとに見直しを行っていくべきだと思う。
- 達成目標年度は 5 年で良いと思う。9 ページに記載のある EU 規則における採卵鶏指令でも 12 年の移行期間があるように、施設や設備に関する事項、人的に不足をしている事項のような直ぐの対応が難しい事項については長期で取り組む必要があると思う。可能であれば、5 年ごとに見直しを行う中で、比較的短期間で取り組むことができそうな事項に注目し、向上を目指す方が普及を行いやすいと思う。全部を一斉に上げることはとても重要だが、「この事項に関しては、この期間に集中的にあげよう」という取組をしてもよいと思う。

〔事務局〕

- ・ 達成目標年度は5年ごととするご意見をいただいたと受け止める。

(3) 取組状況調査の計画

- 取組状況調査の実施間隔について、事務局案の隔年は妥当。あまりに長い期間をあけると生産者も取り組まなければならない事項を忘れてしまう可能性がある。
- 調査は隔年でもいいと思うが、アンケートの設問を答えやすいように工夫しているのであれば、サンプルとして毎年行い確認するような形式でもよいと思う。
- 隔年で取組状況の調査を行う上で、アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理を行っている農家は増えている、ということが分かるようなかたちで推進していくことが必要だと考えている。

〔事務局〕

- ・ 隔年または毎年の調査実施という2つのご意見があったため、再度検討したい。

(4) 畜種ごとの議論の進め方（開催回数など）

- 馬と豚で合わせて検討会を行うのは難しいと思う。もし合わせて開催するなら大家畜と中小家畜で分けた開催が妥当だと思う。
- 畜種ごとの開催がベターだとは考えているが、採卵鶏とブロイラーなどまとめられるところはまとめた方が委員の負担も少ないので助かる。ただ、昨今オンラインでの参加も容易なので、畜種ごとの開催でも調整自体は可能だと思う。

〔事務局〕

- ・ 豚と馬の検討会を合同で開催することは難しいとのご意見があったが、その他に3畜種でまとめるという案もある。畜種ごとの開催を行うと他の畜種の検討状況を確認できず、各畜種で検討の方向がばらばらになってしまう恐れがある。そのため、できればある程度畜種をまとめて開催し、委員が他の畜種の検討の動きも分かるようにすると良いかと考えているため、再度検討したい。

【その他】

- 今回は「実施が推奨される事項」に着目しているが、今後「将来的に実施が推奨される事項」についての取組状況の確認は行わないのか、というご意見もあると考えられる。今は回答を求めないので、この先に備えて考え方を整理しておいてほしい。

〔事務局〕

- ・ 本日のご議論を頂いた中で、「あてはまる」だけの割合については、注意を図りつつも目標設定としては「ややあてはまる」も足したもので考えていくのが、まず当面の目標の立て方としてはいいのではないかと受け止めている。
- ・ 当初は、本日この場で伺った意見を取りまとめた上で達成水準となる数値案を設定し、畜種ごとの具体的な議論に進もうと考えていたが、場合によっては畜種ごとの議論の場で再度達成水準に関して検討する必要が出てくる可能性を認識した。
- ・ 達成目標の確定については、今年度中を考えていたが、本日の議論の状況を踏まえて再度検討の必要があると感じた。

【次回の開催について】

〔事務局〕

- ・ 本日いただいた意見を踏まえて、役所としての意見も改めて検討させていただきたい。本日の意見をまとめた後、委員の皆様に共有し、開催期日、議題等も併せて各委員にご連絡したい。